

東郷小新聞

学校概要



【学校名】湯梨浜町立東郷小学校 【所在地】湯梨浜町小鹿谷820
 【校長名】福田早由里 【児童数】251人
 【教育目標】豊かな心で自ら考え行動する、たくましい児童の育成
 【沿革】2005年4月 桜小・花見小・東郷小の3校が統合して開校



一生懸命に学習に取り組む児童ら

東郷小で昨年11月8日、「第22回中国四国小学校家庭科教育研究大会」が開かれ、中国四国地方各県の教員らが参観した。

1年生は生活科の学習で、地域ボランティアから家事の「こ」を教えるもった。できるよにならな家庭の仕事を選び体験を通して学んだ。児童は「家族がこんなことをしている」ということが分かった。これからは料理をしてみたい」と話した。

3年生は総合的な学習の時間で、地元特産の二十世紀梨をテーマに梨の魅力や伝えた。山崎敦士さんは「多くの人に梨の魅力や伝えられた」と振り返った。

5年生は「買い物名人」を目指す家庭科学習で、

未来のための家庭科学習

家事や買い物のこつ、特産品など学ぶ

目的に合わせて物を選ぶことや契約の仕組みを学習。児童は「買い物の時は商品に書かれた情報をみて、使う目的に合わせて選んで買いたい」と述べた。

6年生は持続可能な社会を目指し、家庭科の学習をした。各家庭から課題を出し、改善案を家族に伝えて環境悪化を防ぐ取り組みをする。小林彩乃さんは「作っても使わない環境に悪影響があるので、作る責任や使う責任を考えたい。持続可能な社会にするため、できることを考え、未来を暮らすやすくしたい」と力を込めた。

(黒田凌、榎一樹、高塚優羽、寺地霞、前田寛太、光浪柑奈、林亮助、山本萌、前田彩姫)



二十世紀梨の袋掛けに挑戦する児童ら

魅力二十世紀梨の袋掛けや収穫体験

3年 袋掛けや収穫体験

東郷小は、湯梨浜町の特産である二十世紀梨の魅力や伝える学習をしている。3年生は5～9月にかけて梨作りを体験し、小袋掛けや大袋掛け、収穫に取り組んだ。また、本年度は創立時に植えられた梨の木が玄関前に2本あることを知り、地域の方の協力で梨を収穫した。

福田早由里校長は「地域の良さを知り、伝えてほしいという思いで、毎年3年生が栽培体験をしている」と説明した。

袋掛けでは、各自が袋を丁寧に梨に掛けた。収穫時は袋掛けをした梨を探して収穫し、他学年の児童や学校職員に配った。3年生の岩成駒智さんは「梨の秘密や良さ、おいしさも学べて良かった。もっと梨について知りたい」と話した。

昨年11月8日に開催された中国四国小

学校家庭科教育研究大会では、3年生児童が多くの人に二十世紀梨の魅力や伝えた。

(伊藤優奈、岩成春智、大羽総一郎、音田純梨、音田心海、沢根大樹、前田潤之介、椋田莉央、湯村咲英)



歌声を披露する5～6年生

5、6年生が練習成果発揮

東郷小の5～6年生が自慢の歌を披露した。昨年11月8日、「中国四国小学校家庭科教育研究大会」が同校であり、オープニングアトラクションで「カントリーロード」を披露した。

5～6年生は、日頃から学校の中心となつて活躍している。委員会活動では、より良い学校を目指し、各委員会がさまざまなイベントを実施している。9月に行われた運動会では、フラッグを使った演技や組立体操をやり遂げた。

研究大会の発表に向け、見に来てくれたお客さんへの感謝の気持ちや、大会のテーマでもある「心」の良さを伝えることを目指し、5～6年生が一つひとつの練習に取り組む、成功させた。

5年の音田純梨さんは「これからも5～6年生が協力し、東郷小を創り上げていく伝統を続けていきたい」と話した。

(会見千紗希、石田亮典、伊藤颯真、藤奈央、岡田晏奈、坂口稀輝、妻波選手、海毅流、山崎里穂)

心を一つに奏でるハーモニー

地域の魅力を受け継ぐ学習

4年 東郷池でカヌー体験やウォーキング



カヌー体験をする児童ら

東郷小の4年生は「We Love 東郷」のテーマで、総合的な学習の時間に取り組んでいる。テーマには「東郷の魅力に気づくことでふるさとに誇りを持ち、大人になっても東郷の良さをずっと守っていきいたい」という願いが込められている。

この学習には恒例の活動が二つある。一つ目は、東郷池でのカヌー体験。1人乗りや2人乗り、ドラゴンカヌーの3種類を体験する。二つ目は、自然豊かな東郷池の周りを歩く「池ウォーク」。町鶴

光協会や町役場、地域の人などが協力してくれる東郷だからできる体験だ。

4年の三ツ田芽生さんは「みんなで息を合わせてドラゴンカヌーをこぐことで協力の大切さを学んだ。東郷はいいなと思った」と話した。

この学習を通して、児童は東郷の良さをたくさん見つけている。

(武部あき、森田瑛斗、小椋苺那、藤岡輝衣、岩本空、信組悠希、世瀬愛香、前田悠貴、黒木元太)

コシアカツバメが選んだ安全な学校

コシアカツバメは鳥取県絶滅危惧Ⅱ類に指定されている貴重なツバメで、腰の部分に赤いことや、とっくり型の巣が特徴。毎年、春になると東郷小にやってきて、安全な場所に巣を作っている。

東郷小ではコシアカツバメを守るため、さまざまな活動を行う。一つ目は、巣の場所を示した地図を作り、校長室前に貼っている。二つ目は、ふんや土の掃除

巣作り、みんなで守る



コシアカツバメの巣を見つけて喜ぶ児童ら

に取り組んでいる。三つ目を守りたい」と話し、5年は、コシアカツバメはもろい、全校のみんなが安心、全とる取り組みを続け安全に過ごせる学校づくりしたい」と述べた。

コシアカツバメについて、野島莉衣愛、西村鈴音、浜田佳子、西村空、神藤凛は「安心して暮らせる環境を、海、田中蒼



業間マラソンに励む児童ら

東郷っ子の運動習慣

東郷小では、体力向上や健康な体づくりに力を入れ、業間運動や春と秋に行われる業間マラソンに励んでいる。児童は週2回の業間運動や、業間マラソンや縄跳びに取り組む。記録会や大会が近づくと、一層気合が入る。自主練習をする児童が増え、学校中に「目標に向かって頑張る雰囲気」が広がる。

児童らは「積み重ねでマラソンのタイムが速くなった」と縄跳びで跳べる回数が増えた」と語る。5年の武光壮志郎さんは「運動の時間を大切に、目標を達成できるように頑張りたい」と話した。

(岡本琴羽、村岡心和中條奏太、深田笑真、山根颯空、前田心雪、竹内由那、米本美羽、佐藤羽海)

5年生が作った新聞です